

## 事務局から

### 編集後記

▼当研究所の創立にご尽力され、その会員拡大をはじめ研究活動に多大な貢献をされた木村隆利さんが、去る11月18日、87歳の生涯を閉じられました。小林理事長および所員4人で告別式に参列し、お送り致しました。

▼すでに本誌102号で取り上げた「小中・貫教育」校の動きが全国的に拡がっており、この問題に関する学習会が10月27日、民主教育研究所が主催して東京で開かれ、

本県の小中一貫校問題を考える上で勉強になりました。「民研」機関誌に本県の実況を寄稿予定です。会には住安孝夫さん（理事・魚沼市議）と佐藤守正さん（湯沢町議）も参加されました。

▼今年度総会で今後の研究所のあり方についての検討委員会をつくることになり、第1回検討委員会を冬休み期間に開催予定。

▼次号（105号）は県内の学校教員の超多忙な問題に焦点をあて、子どもたちにもそれがどのような影響を与えているかを探りたいと思います。（内山）

▼昨年にひきつづいての佐渡調査の第二回めの報告を掲載しました。過疎化の波が伝統芸能の継承にも少なからぬ影響を及ぼしています。余湖れいなさん（現中学一年生）の詩（27頁）は伝統芸能が人から人に継承される有り様をうかがい知ることが出来ます。また荒井瑠伽君の「自分がやらないと『文弥』は続かない」という言葉に頼もしさを感じました。

▼関川村村長の平田大六さんには公務多忙のなかで、長時間にわたってお話を伺いました。新潟の風土にあつた酒づくりから、村の未来を託する若者づくりまで、淡々とした話しぶりとともに、ふるさとに根ざした生き方を印象深くお聞きしました。

▼「保健室の窓から」が好評です。子どもに寄りそって、そして子どもと目線で接することの大切さが分かります。

▼長谷川さんの中国リポートは物価水準の話から尖閣諸島事件の緊迫した状況まで、世界はつながっていることを実感しました。

▼当研究所の創立者の一人である木村隆利

さんの訃報に接しました。私事ですが学生時代の夏休みなどには、木村さんのご自宅が当時は村上にありましたので、よくお邪魔しました。また故八木三男さんのご自宅も近かったのでお二人からご指導を受けたことを思い出します。

心より哀悼を表します。

（大滝）

## にいがたの教育情報 No. 104

2010年12月24日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭 三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座 00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。